



在庫削減が物流改善の近道

先月のJRSニュースでは、輸送費の単価増は避けられない世の中になっていること、自社の物流の「無駄」を全体最適の視点で見直すことで、物流ボリューム全体を減らす物流改善が大切であることに触れた。物流の「無駄」の中でも影響が大きいものに、在庫の「無駄」がある。必要以上の在庫を持つことで、キャッシュフローの悪化、売れ残った場合の損失リスクだけでなく、日々、「保管コスト」（外部委託の場合には保管料、自社倉庫の場合には保険料・減価償却費・光熱費・固定資産税等の保管場所を維持する費用）や「在庫管理コスト」（在庫を管理するための人件費やシステム費用等）が発生する。

「保管コスト」・「在庫管理コスト」は、自社倉庫の場合には実感しにくい、必ず見えない費用が発生している。仮に外部に委託したと仮定すれば、金額が明示されるので分かりやすい。筆者が関与している倉庫業者A社では、保管料を商品の大きさと日々の在庫量で算出している。保管料の基準は、10,000 cm³の商品（350ccのビール6本パックで3個位）で1日2円を基準としている。例えば上記のビール6本パックは、1,200円程度で販売されており、1か月在庫すれば売価の約1.7%、1年であれば約20%もの保管料を荷主に請求することになる。自社の倉庫であっても、荷主の立場になって、上記の保管料を自社の商品に当てはめて計算すれば、必要以上の在庫を持つことが、いかに余計なコストを発生させているかがわかる。

在庫の「無駄」を見つけるには、各商品の「在庫保有日数」を算出して表にすることを勧める。計算式は、「在庫数」÷「1日平均出荷数」というシンプルなものである。この表に「仕入先」・「主な納品先」・「商品群」・「販売価格」といった情報を加え、例えば「在庫保有日数の多い順」など、いろいろ並べ替えてみたり、「仕入先」などのグループ毎に平均「在庫保有日数」を出してみると良い。販売価格が低いのに在庫保有日数が多い問題商品が判明する事や、特定の仕入先への条件交渉が有効と判明する事等が期待できる。

なお、在庫削減も含め、物流改善は、1度行えば良いというものではない。顧客・商品・技術の進歩など、何かが変われば新しい「無駄」が発生する。自社の物流を見直して「無駄」を減らす、継続的な取り組みが大切である。

（執筆者：Cの会所属中小企業診断士 荒井剛志）

※JRS経営情報の中から、次のコンテンツを参考にしてください。

- 在庫に関わる費用にはどんなものがあるか・・・・・・・・・・・・・・・・（2012-0481）
 - キャッシュフローの改善2／棚卸資産の回転スピードを上げる・・・・（2009-0812）
 - 業務5／物流コスト分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1171-4243）
 - 在庫管理のシステム化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2006-1170）
 - 在庫が合わなくなる原因を調べる・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2009-0876）
- （ ）内は情報番号です

なお、お客様にコンテンツを提供される場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。またお探しの情報が不明な場合はご連絡ください。（☎0120-89-0240）